

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年6月2日(2011.6.2)

【公表番号】特表2010-526892(P2010-526892A)

【公表日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【年通号数】公開・登録公報2010-031

【出願番号】特願2010-506835(P2010-506835)

【国際特許分類】

C 08 F 290/06 (2006.01)

C 08 F 220/26 (2006.01)

【F I】

C 08 F 290/06

C 08 F 220/26

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年4月18日(2011.4.18)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項2】

モノマー(A)のモル分率が1~80%、モノマー(B)のモル比が0.1~80%であり、そしてモノマー(C)のモル分率が0.1~80%であることを特徴とする、請求項1に記載のコポリマー。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項3】

モノマー(A)のモル分率が10~70%、モノマー(B)のモル比が10~60%であり、そしてモノマー(C)のモル分率が10~60%であることを特徴とする、請求項1又は2に記載のコポリマー。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項4】

アルキレンオキシド単位(A-O)<sub>m</sub>及び(B-O)<sub>n</sub>がブロック状に配置されていることを特徴とする請求項1~3のいずれか一項に記載のコポリマー。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項5】

(A-O)<sub>m</sub>がプロピレンオキサイド単位であり、そして(B-O)<sub>n</sub>がエチレンオキ

サイド単位であるか、または、(A-O)<sub>m</sub>がエチレンオキサイド単位であり、そして(B-O)<sub>n</sub>がプロピレンオキサイド単位であり、そしてエチレンオキサイド単位のモル分率が、エチレンオキサイド単位とプロピレンオキサイド単位との合計を基準として50~98%であることを特徴とする請求項1~4のいずれか一項に記載のコポリマー。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項6】

エチレンオキサイド単位のモル分率が、エチレンオキサイド単位とプロピレンオキサイド単位との合計を基準として60~95%であることを特徴とする請求項5に記載のコポリマー。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項12

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項12】

分散剤としての、特に顔料又はフィラーのための、請求項1~10のいずれか一項に記載のコポリマーの使用。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

モノマーのモル分率は、モノマー(A)が1~80%、モノマー(B)が0.1~80%及びモノマー(C)が0.1~80%であるのが好ましい。モノマーのモル分率は、特に好ましくは、モノマー(A)が10~70%、モノマー(B)が10~60%及びモノマー(C)が10~60%である。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

アルキレンオキシド単位(A-O)<sub>m</sub>及び(B-O)<sub>n</sub>は、ランダムな形態、又は好ましい実施形態においては、ブロック状に配置されているができる。ある好ましい実施形態においては、(A-O)<sub>m</sub>はエチレンオキサイド単位であり、(B-O)<sub>n</sub>はエプロピレンオキサイド単位であり、または、(A-O)<sub>m</sub>はエチレンオキサイド単位であり、(B-O)<sub>n</sub>はプロピレンオキサイド単位であり、その際、エチレンオキサイド単位のモル分率は、エチレンオキサイド単位とプロピレンオキサイド単位との合計(100%)を基準として、好ましくは50~98%、より好ましくは60~95%、特に好ましくは70~95%である。原則として、アルキレンオキサイド単位の合計は、n+m=2~1000であり、好ましくは2~500、特に2~100、特に好ましくは5~100である。

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0031

【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0031】

## 合成例1

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、258 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量750、EO/POモル比6.3）、136.4 g の2-エチルヘキシルメタクリレート、71.6 g のスチレン及び660 ml のtert-ブタノール中の16.5 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80℃に加熱した。反応温度に到達したところで、130 ml のイソブタノール中に溶解した16.5 g のAMB-N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 15100 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訛訂正10】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0032

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0032】

## 合成例2

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、210 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量350、EO/POモル比1.7）、79.2 g の2-エチルヘキシルメタクリレート、41.6 g のスチレン及び470 ml のtert-ブタノール中の13.4 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80℃に加熱した。反応温度に到達したところで、95 ml のイソブタノール中に溶解した13.4 g のAMB-N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 6900 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訛訂正11】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0033

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0033】

## 合成例3

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、258 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート（モル質量750、EO/POモル比6.3）、87.5 g のラウリルメタクリレート、35.8 g のスチレン及び530 ml のtert-ブタノール中の9.9 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80℃に加熱した。反応温度に到達したところで、110 ml のイソブタノール中に溶解した9.9 g のAMB-N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 14000 \text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訛訂正12】

## 【訂正対象書類名】明細書

## 【訂正対象項目名】0034

## 【訂正方法】変更

## 【訂正の内容】

## 【0034】

## 合成例 4

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、210 g のポリアルキレンジリコールモノメタクリレート（モル質量 350、EO / PO モル比 1.7）、101.6 g のラウリルメタクリレート、41.6 g のスチレン及び 500 ml の *tert*-ブタノール中の 13.4 g の 1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80℃ に加熱した。反応温度に到達したところで、100 ml のイソブタノール中に溶解した 13.4 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 7700 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレンジリコール)

## 【誤訳訂正 13】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0035

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0035】

## 合成例 5

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、363 g のポリアルキレンジリコールモノメタクリレート（モル質量 1100、70% の *t*-ブタノール中 EO / PO モル比 10.2）、117.3 g のラウリルメタクリレート、48.0 g のスチレン及び 730 ml の *tert*-ブタノール中の 11.1 g の 1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80℃ に加熱した。反応温度に到達したところで、150 ml のイソブタノール中に溶解した 11.1 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 22000 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレンジリコール)

## 【誤訳訂正 14】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0036

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0036】

## 合成例 6

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、452 g のポリアルキレンジリコールモノメタクリレート（モル質量 2000、70% の *t*-ブタノール中 EO / PO モル比 20.5）、80.4 g のラウリルメタクリレート、32.9 g のスチレン及び 780 ml の *tert*-ブタノール中の 7.6 g の 1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80℃ に加熱した。反応温度に到達したところで、160 ml のイソブタノール中に溶解した 7.6 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 30500 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレンジリコール)

## 【誤訳訂正 15】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0037

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0037】

## 合成例 7

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、21

0 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 350、EO / PO モル比 1.7)、202.8 g のステアリルメタクリレート、62.4 g のスチレン及び 660 ml の tert - ブタノール中の 11.5 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 °C に加熱した。反応温度に到達したところで、130 ml のイソブタノール中に溶解した 11.5 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 8100 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訳訂正 16】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0038

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0038】

合成例 8

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、258 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 750、EO / PO モル比 6.3)、38.2 g のイソボルニルメタクリレート、30.3 g のベンジルメタクリレート及び 470 ml の tert - ブタノール中の 13.2 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 °C に加熱した。反応温度に到達したところで、100 ml のイソブタノール中に溶解した 13.2 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 15000 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訳訂正 17】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0039

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0039】

合成例 9

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、363 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 1100、70% の t - ブタノール中 EO / PO モル比 10.2)、39.3 g のテトラヒドロフルフリルメタクリレート、87.8 g のフェネチルメタクリレート及び 670 ml の tert - ブタノール中の 8.9 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 °C に加熱した。反応温度に到達したところで、130 ml のイソブタノール中に溶解した 8.9 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 25800 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訳訂正 18】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0040

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0040】

合成例 10

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、452 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 2000、70% の t -

ブタノール中 E O / P O モル比 2 0 . 5 )、 2 5 . 0 g の 2 - エトキシエチルメタクリレート、 2 9 . 7 g の 1 - ビニルイミダゾール及び 7 0 0 m l の t e r t - ブタノール中の 6 . 1 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 8 0 に加熱した。反応温度に到達したところで、 1 4 0 m l のイソブタノール中に溶解した 6 . 1 g の A M B N 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 2 6 0 0 0 \text{ g / mol}$  ( G P C による、対照試料：ポリエチレングリコール )

## 【誤訳訂正 1 9 】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0 0 4 1】

合成例 1 1

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、 2 1 0 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 3 5 0 、 E O / P O モル比 1 . 7 )、 6 9 . 0 g のラウリルアクリレート、 5 2 . 8 g のベンジルメタクリレート及び 4 8 0 m l の t e r t - ブタノール中の 1 5 . 3 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 8 0 に加熱した。反応温度に到達したところで、 1 0 0 m l のイソブタノール中に溶解した 1 5 . 3 g の A M B N 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 7 7 0 0 \text{ g / mol}$  ( G P C による、対照試料：ポリエチレングリコール )

## 【誤訳訂正 2 0 】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0 0 4 2】

合成例 1 2

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、 2 5 8 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 7 5 0 、 E O / P O モル比 6 . 3 )、 3 8 . 2 g の 1 - ビニル - 2 - ピロリドン、 1 0 7 . 3 g のスチレン及び 5 8 0 m l の t e r t - ブタノール中の 1 6 . 5 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 8 0 に加熱した。反応温度に到達したところで、 1 2 0 m l のイソブタノール中に溶解した 1 6 . 5 g の A M B N 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 1 2 1 0 0 \text{ g / mol}$  ( G P C による、対照試料：ポリエチレングリコール )

## 【誤訳訂正 2 1 】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0 0 4 3】

合成例 1 3

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、 4 5 2 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 2 0 0 0 、 7 0 % の t - ブタノール中 E O / P O モル比 2 0 . 5 )、 3 1 . 3 g の 2 - エチルヘキシルメタクリレ

ート、27.8 g のベンジルメタクリレート及び700 ml のtert-ブタノール中の4.6 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80℃に加熱した。反応温度に到達したところで、140 ml のイソブタノール中に溶解した4.6 g のAMB-N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 27000$  g/mol (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訳訂正22】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0044

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0044】

合成例14

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、36.3 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 1100、70% のtert-ブタノール中 EO/PO モル比 10.2)、58.7 g のラウリルメタクリレート、43.9 g のフェネチルメタクリレート及び630 ml のtert-ブタノール中の6.7 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80℃に加熱した。反応温度に到達したところで、130 ml のイソブタノール中に溶解した6.7 g のAMB-N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 23000$  g/mol (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訳訂正23】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0045

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0045】

合成例15

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、25.8 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 750、EO/PO モル比 6.3)、116.3 g のステアリルメタクリレート、70.9 g の2-フェノキシエチルメタクリレート及び620 ml のtert-ブタノール中の9.9 g の1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80℃に加熱した。反応温度に到達したところで、120 ml のイソブタノール中に溶解した9.9 g のAMB-N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 11200$  g/mol (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訳訂正24】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0046

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0046】

合成例16

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、21.0 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 350、EO/PO モル比 0.43)、72.0 g のラウリルアクリレート、52.8 g のベンジルメタクリレート及び480 ml のtert-ブタノール中の11.1 g の1-ドデカンチオールを窒素

雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80℃ に加熱した。反応温度に到達したところで、100ml のイソブタノール中に溶解した 11.1 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 8400 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訳訂正 25】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0047

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0047】

合成例 17

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、25.8 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 750、EO/PO モル比 0.22)、87.5 g のラウリルメタクリレート、35.8 g のスチレン及び 530 ml の tert - ブタノール中の 9.9 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80℃ に加熱した。反応温度に到達したところで、110ml のイソブタノール中に溶解した 9.9 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 10700 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訳訂正 26】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0048

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0048】

合成例 18

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、36.3 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 1100、70% の t - ブタノール中 EO/PO モル比 0.30)、58.7 g のラウリルメタクリレート、43.9 g のフェネチルメタクリレート及び 630 ml の tert - ブタノール中の 6.7 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80℃ に加熱した。反応温度に到達したところで、130ml のイソブタノール中に溶解した 6.7 g の AMBN 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 24000 \text{ g/mol}$  (GPC による、対照試料：ポリエチレングリコール)

## 【誤訳訂正 27】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0049

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【0049】

合成例 19

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、38.8 g のポリアルキレングリコールモノメタクリレート (モル質量 750、EO/PO モル比 6.3)、68.2 g の 2 - エチルヘキシルメタクリレート、35.8 g のスチレン及び 660 ml の tert - ブタノール中の 11.6 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80℃ に加熱した。反応温度に到達したところで、130ml のイソブタノール中に溶解した 11.6 g の AMBN 開始剤を 1 時間

にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 15000\text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正28】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0050

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0050】

合成例20

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、51.7gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量750、EO/POモル比6.3)、68.2gの2-エチルヘキシルメタクリレート、35.8gのスチレン及び470mlのtert-ブタノール中の13.2gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80℃に加熱した。反応温度に到達したところで、100mlのイソブタノール中に溶解した13.2gのAMB-N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 10000\text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正29】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0051

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0051】

合成例21

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、28.0gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量350、EO/POモル比1.7)、79.2gの2-エチルヘキシルメタクリレート、41.6gのスチレン及び480mlのtert-ブタノール中の15.3gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80℃に加熱した。反応温度に到達したところで、100mlのイソブタノール中に溶解した15.3gのAMB-N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 13500\text{ g/mol}$  (GPCによる、対照試料：ポリエチレングリコール)

【誤訳訂正30】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0052

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0052】

合成例22

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、38.7gのポリアルキレングリコールモノメタクリレート(モル質量750、EO/POモル比6.3)、87.5gのラウリルメタクリレート、35.8gのスチレン及び660mlのtert-ブタノール中の11.6gの1-ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら80℃に加熱した。反応温度に到達したところで、130mlのイソブタノール中に溶解した11.6gのAMB-N開始剤を1時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに5時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量 $M_w = 9700\text{ g/mol}$  (GPCによる

、対照試料：ポリエチレングリコール）

【誤訳訂正 3 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 3】

合成例 2 3

攪拌器、還流冷却器、内部温度計及び窒素注入口を有するフラスコ中に、最初に、267 g のポリアルキレンジリコールモノメタクリレート（モル質量 350、E O / P O モル比 1 . 7）、101 . 6 g のラウリルメタクリレート、41 . 6 g のスチレン及び 480 ml の t e r t - ブタノール中の 15 . 3 g の 1 - ドデカンチオールを窒素雰囲気下投入した。その後、投入物を攪拌しながら 80 に加熱した。反応温度に到達したところで、100 ml のイソブタノール中に溶解した 15 . 3 g の A M B N 開始剤を 1 時間にわたり添加した。これに続けてその温度でさらに 5 時間攪拌した。室温まで冷却した後、減圧下で溶剤を除去した。得られたポリマーのモル質量  $M_w = 12000 \text{ g/mol}$  (G P C による、対照試料：ポリエチレングリコール）

【誤訳訂正 3 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 6】

顔料配合物の評価

色彩強度及び色相は D I N 5 5 9 8 6 に従い測定した。摩擦試験 (R u b - O u t - T e s t) は、分散ペイントと顔料分散体とを混合した後、分散ペイントをペイントカードに塗布した。その後、適用されたコーティングのうちペイントカードの下部を指で摩擦した。その時、近接の後処理していない部分と比較して摩擦部分が強い色又は輝く色を有している場合は、不適合性が存在した（独国特許発明 2638946 号明細書に記載の摩擦試験 (R u b - O u t - T e s t)）。色彩強度と適合性は着色すべき媒体と共に、外装用の分散ペイントを使用して測定した（水性 20 % T i O<sub>2</sub>）。